

昭和31年6月18日第3種郵便物認可
毎月1回1日発行
定価1部15円
印刷所 田辺印刷株式会社
上田市原町 TEL (2) 1492・2566

千曲会報

編集兼発行人 小林 尚一
発行所 社団法人千曲会
長野県上田市常入信州大学繊維学部内
振替長野 6243・東京43341
電話上田(2)1215(代表)(2)1218(直通)

針塚先生追想録刊行事業の終結と胸像台石修理

「針塚長太郎先生—その伝記と追想記」は既報のように昨年9月に完成し、それぞれ贈呈や配本をすませた。その後の売れ行きも順調で、まもなく黒字となった。そして、昨年9月出版1周年を期して刊行委員会を開き、一応の会計整理を行った。そのさいに、残金の範囲内で針塚先生に関係のある有益な事業は出来ないものかと議題が出た。そのとき浮んで来たのが先生胸像台石の修理であった。御承知のように母校25周年のさいに作成した先生の寿像は、戦争中に惜しくも供出撤去され、昭和26年からその近くに同じく石井鶴三先生原作の胸像が設置されている。この胸像は、石井先生の御意見では「もとよりあのような場所へ置くものとして作ったのではなく、台石もまにあわせてありますから、何やらおかしな感じであります」（針塚先生伝記と追想記 115頁）とのことで、せめて台石だけでも先生の御意向にそわねば申訳ないことであった。

石井先生は大正13年から毎夏1週間上田にみえる。これは上田彫塑研究会（会員は上田・小泉地方の主として教育者）の指導にみえるのである。先生の指導は普通とは非常にちがっている。すなわち御自身も一会員として造型に精進されることを通じて指導の裏を上げておられる。大正13年からといえども40年になる。先生はこの40年間、終戦の昭和20年を除いて、1回も休まれることなく毎夏上田にみえて本格的な習作精進をしておられるのである。

本年8月3日、彫塑研究会場の上田高校から学部まで先生にお越しいただき胸像台石について御相談申し上げた。先生の御意向では、台石は根本的にかえる必要はなく現在の台石の上部の周縁を削り胸像の下に一定の厚みの台をつくらばよい、とのことであった。そこで、のみを加えるべき部分を設計していただいたところ、約1時間を要して出来上った。

その仕事の石工を誰にすべきかについては、倉沢委員や猪坂委員と御相談し、上田市愛宕町の大宮氏に依頼した。この仕事は8月中に出来上った。9月11日石井先生が御来田されたのを機会にそれをみていただいた。当日は、蒲生・倉沢・猪坂・野口・萩原・山口・松尾の7委員（小泉学部長は出張中）に、東京の鈴木委員にも御出席いただいた。石工の仕事については御満足いただいたが、台の厚みをさらに1cmほど増す方がいいとの御意向であった。大宮氏はそれを体してさらにのみを加え、写真のように胸像台石の修理が完成した。これは10月24日上田彫塑研究会40年記念展に御来田の先生に御覧いただいた。この日は小泉（学部長）・山口・松尾の3委員がお迎えした。

石井先生は2年前に喜寿をすまされたとのことであるが、実に若々しいので驚いた。先生が針塚先生の塑像を作られたのは40才台であったが、その当時とほとんど変わっておられないとのことである。記憶など実に素晴らしく、倉沢さん・山

口さんと御一緒に寿像の台石をさがしながら湯ヶ丸山に登られ山口さんがその直後に盲腸炎をして入院したことなど30年前のことを実に明細に憶えておられた。針塚先生のことにも実によく記憶しておられた。

「伝記と追想記」の57—58頁に針塚先生が石井先生のことを詠まれた和歌がある。

物替の真相写して先生の深山隠くりの画室はたふとこれに「石井鶴三先生山梨県の桐原村と云う入里より二里を隔てたる山中に画室を建てられ居居される山」という説明がついている。針塚先生がはるか年若い石井先生をいかに深く尊敬しておられたか、この和歌によってもわかるのである。また石井先生がいかに針塚先生を尊敬しておられたかは、針塚先生の追想記を早速お寄せ下さったことからもうかがうことが出来る。石井先生の御寄稿が、あの本の価値をいかに高めたかはここに説明するまでもないことである。

いま母校は急速に変りつつある。1号蚕室のあとには繊維機械学科が建った。焼失した旧本館のあとには新設の繊維化学工学科の研究室と共通教室がいま建ちつつあるいずれも3階の鉄筋コンクリートである。さらに紡織工学・繊維工業化学・繊維農学の建物も続々と建築が予定されている。数年すれば、古い木造は全くなって去らうであろう。このような改築と共に古い伝統はすべてなくなってしまふのであろうか。コンクリートから木造に逆戻りすることは出来ない。また合成繊維から絹へ逆戻りせよというつもりもない。しかしわれわれの伝統は、時間とともに古くなって去らうものだけなのであろうか。

われわれの学園は樹木が実に美しい。佐藤春太郎先生によれば、「かつて米国人の教育指導者が当校を視察された時、校庭に鬱蒼として茂る幾多の樹木とその配置の妙を眺めて、『信濃路に入り始めてこの上田で大学らしい風格に接することが出来た』と当校を激賞した」（針塚先生伝記と追想記102頁）とのことである。これら幾多の樹木は針塚先生が植えられたという。あちこちにあるケヤキの大木は、5—60年でよくもこんなに育ったものだと思う。このうつつそうたる樹木の真中に枯山水の庭園がある。その石の配置は実にすばらしい。これは芸術会員石井鶴三先生の指図で庭師長谷屋氏が築いたものだからである。そこに胸像が設置されている。この胸像の原型石膏は昭和9年の院展に石井鶴三作「肖像(H氏)」として出品され、傑作として非常な名声を博したものである。芸術品としてみると、そのモデルの名前は問うところではない。名前を離れて一人歩き出来る作品のみが本物のだ。このような意味でもこの像はわれわれ学園の宝といえないだろうか。美しいうつつそうたる樹木に、枯山水の庭園に、胸像に、そしてまた「針塚長太郎先生—その伝記と追想記」にわれわれの歴史はいつまでも生きつづけるであろう。針塚先生追想録刊行事業の終結にあたり、胸像台石の修理が出来たことは、まことにうれしいことであった。（松尾卓見記す）



心 理 診 断 の 試 み

信州大学助教授 田 中 博 正

心理学という学問の宿命かもしれないが、人間行動の複雑さを標示し、予測可能にするような安定したインデックス(index)はなかなか定まらない。それでも統制された条件下で、この安定したインデックスを見極めようと努力しているわけである。しかし、この時点では安定しているようでもちがった時点になると、以前に安定していたものが不安定なインデックスになることがままある。このよい例としては応用心理学の範疇に入る教育心理学と産業心理学があげられる。

どちらも、教育および産業といった状況で起る現象に心理学的な接近を行うわけだが、教育および産業のいずれも政策や技術革新によって変化するものである。(ここでは本質論にふれずに、教育および産業の状況のすい移と共に生ずる教育的、産業的事実の展開過程を現象論的に考えている。)

教育心理学は総論的で概論はあるが各論は弱く、産業心理学は概論は体系的に弱いが各論ではかなり注目すべきものがあるといったような点からは異なるが、全体的傾向としてはかなり似ているのではないかと思う。つまり、教育とか産業といった母体の変化とこれらにたいする心理学的接近方法の改良につれて方法論的にも変化せざるをえないといった両者の性格の類似性があるといえよう。この間の事情を少しく具体的にしてみる。教育心理学が、戦後には児童の側からの見方が強くなり、戦前のように児童の動きを固定的に考えることは少くなり、ために各科教育、生活指導といった面の教育心理学的研究が多くなった。一方、産業心理学においても同様な傾向がみられる。単に物理的条件(騒音・照明・etc)だけが重要な要因でなく、それらの条件を作業者自身が自らの条件として、換言すればいかに行動的な環境条件とみなすかが実は最も重要な要因であることへの認識がなされるようになった。これは周知のごとく、米国では1910年代に始まるかの有名な科学的管理法(Scientific management)限界が、ホーソン実験(Hawthorne research)によって示唆されたことで明らかである。

このようにして、人間関係論やひろく社会心理学的な技法や考え方が産業心理学に取り入れられるようになった。

もちろん、正しいことであっても、それが世に受け入れられていくという過程は、以上にふれた一連の実験が一つの契機にはなり得たかもしれないが、時代的背景としての経済界の不況、教育・思想界の混乱から派生した人間的な要求(Need)の高まりが大きな動因となっていることを見逃がしては正鵠を得ないのではないかと思われる。

この間の事情が、さらに拡大されたのは第二次大戦後の人

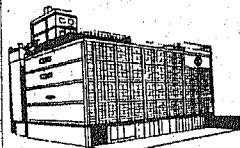
権拡張に伴って起った様々の変革が人為的であるにせよ、原の火のごとく大衆の間に人間的要求をたかめた事実を我々の周囲に示してくれたことでもしられよう。

極端ないい方をすれば、ヒューマンイズムの立場から教育心理学も産業心理学も見直されるようになったといえよう。作業能率を高めたり、生産性の向上といったことが、ヒューマンイズムの立場からも考察されなければならないということに気付くようになったといえよう。それが証拠には産業心理学の分野でも主要な研究分野は従来、作業研究が主であったが現在ではそれと人間関係の分野に二分することができる。もちろんこの2つは相則不離の関係であって、どちらかを無視して片方だけを問題にすることはできない。しかし、実際問題としては、アクセントの置き方によってどちらかに分れるのが普通である。行動(Behavior)は一定の刺激にたいしてある心的な構えをもって反応するけれども、この心的な構えがどのようにして形成され、崩壊するかを説明することは非常に困難なことである。ただ経験的なものによることは容易に予想されよう。しかも、理性的の論理でなく、表現することが許されるならば感情の論理ともいべきものによって影響を受けるのではなからうか。この感情は形而上学的に質的な問題としては多くの人によって、様々に論ぜられてきた。心理学ではこれらの質的な感情を量的に測定表示する試みがなされてきた。これらの試みのうち、現在私が関心のある試みは意味論から出発したS-D法(Semantic Differential Method)によるものである。簡単にいってこれは種々の心理学的な操作によって形容詞の対概念をあげ被験者にたいして特定の対象についてのイメージ(image)を分極をなす対概念の間に位置づけさせる方法である。この方法を因子分析の操作によってモディファイ(modify)して個人ならびに集団の特性を明らかにする道を研究してみることである。試みに行なった範囲では個人に関しては自我意識の強さ、配偶者獲得の可能性、精神衛生(適応状態)結婚幸福度

集団に関しては、職場の雰囲気、労務管理の問題点といった面での使用効果はありそうである。少くとも何を考えたらよいか、の“何を”が何かを知らせてくれるといった効果はあろう。

(影の声) どうもこの頃、気がめいる、人と対立する、面白くない、販売成績が伸びない。工場や店の中がぐらいいった悩があれば心理学研究室にいらっしやい。@でとくに期間中は無料テーピスで診断してあげます。

(註：筆者繊維学部一般教育 心理学研究室)



皆様の百貨店

上田・中央

ほていや

特許・実用新案・意匠・商標
出願・訴訟・鑑定

浜 特 許 事 務 所

東京都芝新橋1の20
堤第一ビル四階
東京(591) 07.64・07.65

弁理士 浜 香 三
弁護士 中 猪 之 助
千曲会員 福 島 鋼 治 郎

高分子合成の最近の話題

信州大学繊維学部助手 大 屋 正 尚

立体規則性高分子ポリプロピレンが発見されたのがついこの間と思っていたら、もう二次成品として相当市販されている。ポリウレタンは子供でも知って居り、その弾性繊維もぼつぼつお目見えした。EPラバーも身近なものになるだろう。

合成高分子は種切れたと云う声を2, 3年前きいたが、どうして工業化の基礎になると思われるものが研究の分野で続々と出て来ている。従って最近のと云ってもひと昔のと云った方が妥当かも知れない。合成繊維が直面している問題の一つに吸湿性がある、立体規則性ポバール等もそれを満すかも知れないが、ナイロンの炭素数を少なくすると吸湿性が出て来る即ちナイロン4は温度と吸湿量の関係が綿に似ている。

ナイロン4は(1)の如くピロリドン重合して作り、ピロリドンは、アルデヒドとアセチレンから作る(2)エチレンも利用出来るであろうから、量産もそう困難でない。このポリマはデルリンと同じ末端基の処理が必要である、と云うのは分解を行う際、恰もパールの首飾りの糸が一ヶ所切れた時のように端から分解する性質があるからである。

アクリルアミド(3a)はずでに量産されている、このものはビニル重合することは勿論であるが、NaORを触媒にすると(3)の如く重合してナイロン3を生ずる。このものは軟化点325~340°Cであると云われる。その他の報告は見当たらないが構造からして恐らく吸湿性だろう。ただこれを作る際不純物の除去が問題になるかも知れない。

N-カルボキシアミノ酸無水物(4b)はLeuchsによって合成されWood Wardがこれを用いて合成蛋白なるものを作り有名になったものである。当時高価であったアミノ酸も最近は相当安価に供給される見込みがつかれた。これを用いるとナイロン2に相当するものが出来る。或物は絹の様な繊維を作る。2, 3の大学や会社で研究されている様である。

イソシヤネートはウレタンの原料としてはあまりに有名でありジイソシヤネートはジオールと反応して線状ポリウレタンを生ずるが、イソシヤネート自体も青酸カリ等でイオン重合して(5)の如くナイロン1に相当するポリマを得る。

以上ナイロン1から4まで逆に記したがこのように炭素数が少なくなると融点と分解点が近くなり或いは融点を示さないで分解してしまう、従って紡糸法についても色々考えなければならぬ。

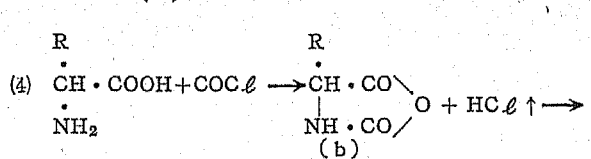
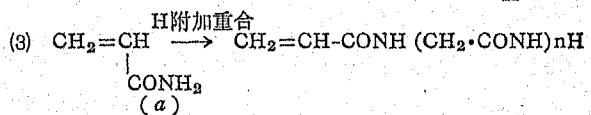
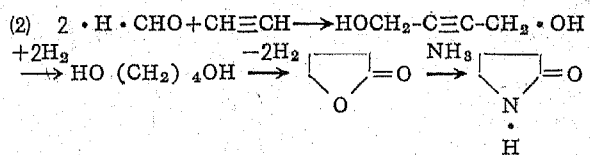
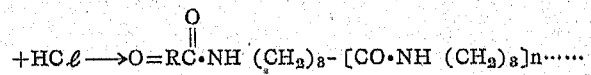
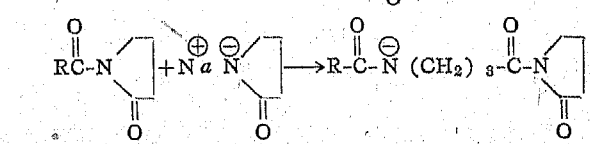
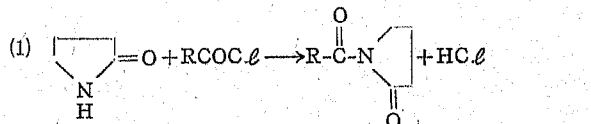
線を考えればこれに枝をつけたものとは考えたくするのは当然である。これについては深く研究して居られる方が本学にも居られることだから何れ執筆願うことにして、グラフトポリマ(枝状高分子)では、幹ポリマと枝が本当に反応しているのか、ただからまっているだけなのか、又枝の本当の長さはどの位なのかと云うことが今までの合成法の盲点であった。そこでテトメリゼーション(低量重合反応)を利用して低量重合体の末端に反応性に富んだ基を導入して分った分子量のものを作り而る後分った分子量の幹ポリマと反応させることが可能となる。具体的にはビニル化合物をSOCℓ₂, CH₃COCℓ, COCℓ₂等の中で重合させ、生じた低量重合体は末端にSOCℓ, COCℓをもつからこれと幹ポリマのHO NH₂をもつものと反応させればよい。(6)

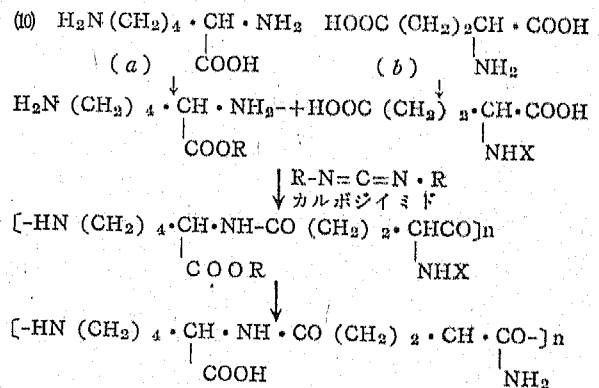
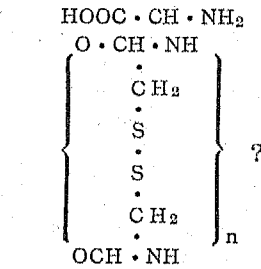
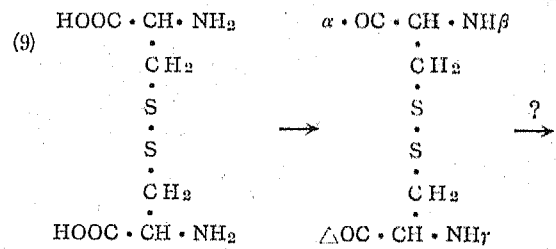
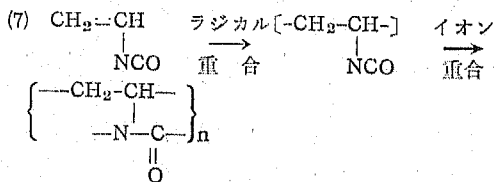
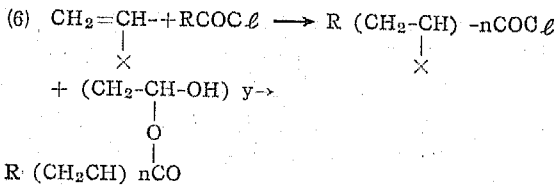
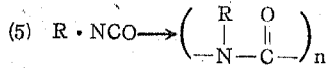
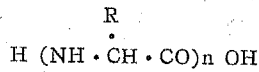
次に最近問題になっている Ladder Polymer) はしご型) Star Polymer) に(星型)について述べよう。これらは頭の中で簡単に考える事は易いが、特定の型を有するように分子を生長させるとなると難しい。先ずビニルイソシヤネートについて考えよう。(7a)イソシヤネート自身が重合する

ことは前に述べたが、この触媒とビニル基をラジカル重合する触媒は幸に違う、そこでビニル基を最初に重合させ次にイリシヤネート基をイオン重合させると Ladder Polymer) となる。米国で研究されていると云う、次にシクロプロパゼンと云うものが最近発見された(8a)それをBF₃で重合されるとやはり Ladder Polrmer) 出来る筈である。併し目下の処、分子量が低いと云うより高分子にならないようである。

シスチン(9a)は羊毛に含まれ羊毛の特徴を示すアミノ酸である、これからも同上のポリマが出来る可能性がある。これが夢か否かは数年先を見て頂きたい。普通の重合法では三次元になり不溶化してしまうのでためである。

又ドイツでは、2アミノモノカルボン酸のリジンとモノアミノジカルボン酸のグルタミン酸からこれも最近注目されたカルボジイミドを脱水縮合剤として側鎖にアミノ、カルボキシル両基をもったポリマを合成している。これらも羊毛のモデルとしては面白い。合成繊維の分子が糸状でないとならぬと云われているが、どの程度枝があつてよいのか、糸状分子束ではどうなのか、Ladder Polymer Star Polymer) が回答を与えてくれるだろう。その他金属キレートによるこのような型のポリマは北条研で研究して居られるので次の機会に執筆願うことにしよう。以上原稿の穴うめに急いで書いたのであるが、これらの内或物の合成法は当研究室で技術的に可能となつて居り又なりつつあるものである。終りに平素から御指導頂いている諸先生、又文献調査に協力頂いた当研卒論生諸氏に感謝の意を表す。なお間違いを御指摘頂ければ幸である。





カライズカラーカフス

ワイシャツ地そのままのソフトな肌ざわりに
糊の効いたシャープな切れ味を添えたものが
カノライズカラー・カフスの特徴です

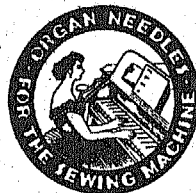


高原シャツ

㊦ 日本工業規格表示許可工場

高原シャツ株式会社

更 埴 市 屋 代



オルガン ミシン針

長野県小県郡塩田町

オルガン針株式会社

TEL 塩田 650

社 長 増 島 芳 美


為替のご用は

はやくて たしかな

富士をご利用下さい

千曲会へのご送金は、当店宛の振替貯金
口座長野8523が一番ご便利です

上田市原町

皆様の  富士銀行上田支店

菅平ヒュッテの利用方法について

菅平ヒュッテが校友会より寄付され体育指導所として学部移管になったのは昭和11年でありましたが、その運営については今まではむしろ学生側にまかせきりであったので、はっきりした基準もなく、とかく混乱を起し勝ちでありました。建物自体も、その間多少の補修はあったとはいえるものの、昭和7年当時のものであり、今は老きうそのもの。管理人の献身的な努力によって僅かに維持されて来たといったところ。菅平にあるヒュッテはやはりわれわれの学部のものである以上もっと管理のあり方も、運営の仕方によりよくして、利用者がお互いに迷惑のかからない、使いやすいものにしたとの念願から、こんど学部教職員および学生よりなる運営委員会ができ、種々綿密に検討した結果、次のような使用規程によって利用して頂くことになりました。出来ることなら将来はいろいろ改築したりして、もっと快適なものにしたいと念願しておりますので、切に御協力をお願い致します。

管理運営

信州大学菅平ヒュッテの管理運営は、繊維学部長の委嘱により補導委員長がこれに当り、厚生補導係が所管する。管理人が常任して利用者の世話をし、建物・物品の保全監守などヒュッテ全般の管理をする。またヒュッテの運営を円滑にするために、補導委員長の諮問機関として教職員7名および学生代表3名よりなるヒュッテ運営委員会があって、運営経費使用規程その他の主要事項について審議し、それに基づいて運営する。

使用規程

第1条 信州大学菅平ヒュッテ(以下単にヒュッテという)の使用については、この規程の定めるところによる。

第2条 ヒュッテは主として本学学生および教職員の課外活動、体育、保健および学術研究に使用することを目的とする。

第3条 ヒュッテの定員は20名とする。ただし宿舎など課外活動のため補導委員長が必要と認めた場合は、30名まで許可することができる。

第4条 ヒュッテを使用できる者は下記のとおりとする。

- 1, 本学学生
- 2, 本学教職員
- 3, その他補導委員長が認めた者

第5条 ヒュッテを使用しようとする者は、使用開始日の10日前までに所定の使用願を厚生補導係に提出し、使用許可証の交付を受けなければならない。

第6条 ヒュッテ使用申込みの際、使用料として納入すべき経費は1人1泊につき100円である。ただし課外活動に使用する場合は必要としない。

第7条 ヒュッテの使用期間は原則として1人3泊4日以内とする。ただし課外活動など補導委員長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第8条 ヒュッテ使用を許可された者は、使用許可証ならびに学生証または身分証明書を持参し、管理人に提示、所定の経費その他を納入しなければならない。

第9条 ヒュッテを使用する者はこの規程および使用者心得を厳守し、厚生補導係および管理人の指示に従わなければならない。

第10条 管理人は次の者の使用を拒否し、または退去させることができる。

- 1, 使用許可証および学生証または身分証明書を持参しない者。
- 2, 使用許可証の交付をうけるとき、虚偽の申告をした者。
- 3, 使用期間をこえた者。
- 4, この規程および使用者心得に従わない者。
- 5, その他管理人の指示に従わない者。

第11条 故意または自己の過失により建物、備品等を破損紛失した者はこれを弁償しなければならない。

第12条 この規程はヒュッテの拡充その他の理由により、補導委員長が必要と認めた場合は、運営委員会の審議に基づき規程の一部を訂正または追加することができる。

付 則

この規程は昭和39年10月23日から実施する。

使用者心得(抜粋)

3) ヒュッテ使用の際食費その他として納入すべき経費は1人1泊(3食付)につき250円である。ただし納入した経費は宿泊その他を変更しても払戻しをしない。

4) ヒュッテ使用者は上記経費のほか、必ず米を1人1泊(3食付)につき1リットルの割で持参し、経費納入と同時に管理人に渡すこと。米を持参しなかったり、量目不足の場合は食事を提供しない。また副食物は味噌汁、漬物以外は出ないから各自持参のこと。自炊、煮たきは一切許可されない。副食物は缶詰などすぐ食べられるものがよい。

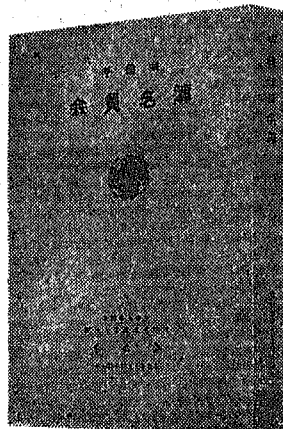
17) ヒュッテで休けいしようとする者は1人につき50円納入のこと。休けい時間は午前9時より午後5時までとする。

(黒岩記)

千曲会員名簿発行頒布について

かねて本会報で予告した会員名簿はいよいよ10月1日印刷を完了し、10月10日発行した。B6判、506頁、上質紙55斤を使用し、名簿の体裁は卒業期別索引付とし、出来得るだけ動静の正確を期した次第です。

この経費は広告料と名簿の売上代および通常会計からの補助支弁で発行することになり、頒価は1部300円送料100円に決定致しました。先に各支会より予約購入部数を取まとめていただいた部数については既に支会事務所に発送したが未だ申し込みのない会員は



振替用紙を利用して千曲会本部に御申し込み下さい。限定出版につきご入用の方は至急御申越の程を御願致します。

尚本名簿発行の主要な財源となりました広告の募集並びに会員の動静調査等には、各支会の皆様にご多大なご尽力をいただきました、ここに附記して厚く御礼申し上げます。

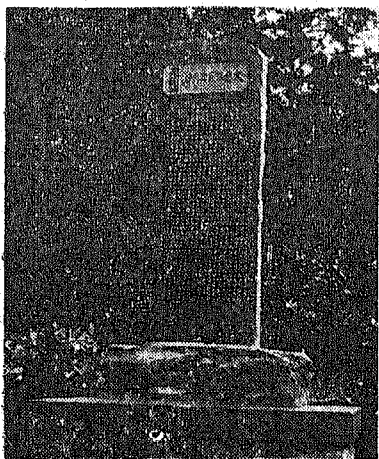
昭和39年10月31日

千曲会 動 静 部

故大越信氏(蚕14)の顕彰碑建立について
—至誠ついにかくれず—

本会報10月号にとりあえず報じたように大越信氏の顕彰碑が建立された。ここにはそのいきさつ内容についてやゝ詳しくおしらせする。

大越信氏は、明治32年福島県田村郡大越町に生まれた。福島蚕糸学校別科をへて上田蚕糸専門学校養蚕科に学び、昭和2年に卒業し福島県蚕業取締所吏員をふり出しに福島県の養蚕関係の技師として主として南会津地方に多年勤務され、昭和19年から南会津地方事務所蚕糸課長・南会津蚕業指導所長をつとめ、昭和31年公職を辞した。その後蚕糸会社の幹部となり、公職のととき同様に自己の考えを实地に応用すべく東奔西走していたが、旅先で発病し、昭和34年9月25日57才で逝去した。



氏は仕事にあたっては実に至誠一貫し農民に大きな感銘を与えた人である。戦後南会津地方の産業は養蚕なくしては生計は立たないと確信し、住宅難から一時は電灯もない葉たばこ乾燥小屋に寝起きし、東西50Kもある管内の農家をくまなく回って「カイコを飼いなさい」と説いて歩いた。作業服にゲートルばき・腰弁の姿はだれからも親しまれ、気軽に相談でき、養蚕普及に大きな原動力となった。県下で初めての立木桑園のせん定や条桑育てを奨励実施し増産につくしたことも特筆すべきことである。かくしていま南会津地方の養蚕は年産1億7000万円の収入をあげ、米・葉たばこにつぐ三大産業の一つに数えられ、生産者は2215人を数えている。

氏の顕彰碑は、今春4月南会津事務所長の吉野朗氏、町村長会長長宝井源次氏、郡養蚕連会長横山正夫氏、郡東部養蚕連会長大竹藤寿氏、蚕桑取扱者代表猪股慶一氏らが発起人となり、養蚕家から浄財をつのつたもので、写真にみるごとく高さ

2mの御影石でりつばなものである。題字は木村県知事の筆で、撰文は佐久間副知事である。建立場所は南会津郡田島町丸山公園で、9月15日に佐久間副知事をはじめ関係者150名町民200名が参列して盛大な除幕式が行われた。修ばつつあと大越氏の未亡人チヨノさんの手によって紅白のテープが切られ除幕された。

大越氏の性格については親交のあった同郷の先輩鈴木教吾氏や佐藤春太郎先生などがよく御存知である。養蚕科選科に入学するまえ2・3年佐藤先生の研究室で業手をされたが、これは鈴木氏の懇請によつたものだという。氏は表面的の立身出世などは決して求めず誠実に一貫し人の認めない基礎的な仕事をこつこつと一生実践し、千曲会員にすらほとんど顧みられぬ全くの無名のままで生涯を閉じた。このたびの顕彰碑は「世間は盲ばかりでない」ことを示すものだが、われわれ千曲会員にとって実にうれしいことである。この碑が建立除幕されてから未亡人のチヨノさんが佐藤先生や鈴木氏に感謝報告して来ている。故人遊いてすでに5年一心温まる話である。

こまき会白骨温泉上高地の旅

- 右左視界開くたび声上げて
慰安つつがなしバスに揺れつつ
- 物白く化して湧きくる炭酸泉
浴室ひそと蒸気立ちこむ
- 裾青葉中処は紅葉嶺に雪
穂高連山朝光に浮く
- 水澄める面に地肌の焼岳写し
噴煙ひそと風にさゆらぐ(大正池)
- キャンプ村人影もなく穂の如
紙屑ちりて秋の日暮れる

10月3日繊維農学科こまき会では恒例の秋の旅として白骨温泉、上高地を選んで長島先生以下幹事の計画よろしく土曜正午ぎりぎりに、都合で参加できない山口先生たちの見送りで目的地に向つたバスは上電観光、生憎正服を着た紳士がガイドであつたので気分のはぐれるのもやや遅れ、松本に入る頃に米のエキスも入って皆満顔ほころびはじめた。梓川沿い田口先生の司会よろしきを得て美声をはり上げた。今回の旅行には矢木先生が奥さん、お嬢さんを同伴され、一決愛妻会会長に推し、これからは家族ぐるみの旅行にしようという申しせをした。夕刻炭酸カルシュームでさらされるものすべて白化されるという白骨温泉に到着したすでに部屋割ができていて、早速一風呂浴びて懇親会に入つた。例の如くナンバーワン武田先生のラッシュウモン、田口先生唄う踊り黒田節、日頃唄を聞かない松尾先生、関先生の唄、その他諸々、しんしんと夜が更けて冷えこむアルプスの谷

間に声がこたました。

翌14日は途中台風20号で道路決壊した道を徒歩進行して上高地に出かけた。穂高連山はすでに雪化粧し、中腹は丁度見頃の紅葉、大正池は青葉につつまれ、噴火の後もなまなましい地肌の焼岳を写し



(大正池より穂高連山)

ボートを楽しむものもちらほら、木当に絵に書いたような情景だつた。この日に山に入つたものが3千人とか、ちよつと上田の街中を歩くような賑わいであつたとにかく日頃の行いがよかつたためか雲一つない快晴にめぐまれ、1泊2日の旅行を心ゆくまで堪能して明日への気負いも新たに夕刻上田へと帰つた。

(小林勝記)

元駐米大使朝海浩一郎氏の講演会開かる

上田ロータリークラブ、上田商工会議所主催による朝海氏の講演会が10月12日(月)母校講堂で催された。演題は“国際貿易開発会議における南北問題について”で、内容は演題とはやや離れた日本国民の長短についてであつた。先づ世界に誇りとしてよい点は勤勉さで、敗戦のどん底から驚異的に立上ることができたのもこのため、いまや先進国(developed Country)の中の developing developed Country として後進国(developing Country)指導における日本の立場の重要性を強調された。これほど高く評価されるべき日本国民がなぜ言葉となると控え目になるのかと例を上げて話された。オリンピックを見てもそれに代る言葉がありながらゼッケン何番とかやたらに外国語を使う。食物のメニューに至ってはほとんどが外国語である。また道路案内でも外国語を先に大きく掲げ下に小さく日本語を書き、他の国では例をみないほど自国語にプライドをもっていない。その他人の言った事をまに受け儀礼的に言つたに過ぎない事でも誰それがこう言つたと記事にする事を指摘された。また行儀の悪い点もあまり誇りにならない事を上げられた。

とにかく国際感覚のとぼしい吾々にとって反省させられる面が多々あつた。

第25回定期総会のお知らせ

昭和39年度千曲会定期総会は恒例の11月23日(勤労感謝の日)午前10時より母校第1会議室において次の要領で開催いたします。この総会は昭和38年度収支決算、昭和40年度収支予算案を初め次の議題について審議し本会の向上発展を旨とする総会であります。代議員各位は万障お繰り合せご出席下さいますようお願い申し上げます。

なお母校学部はさきに正門の改修完成、目下繊維化学工学科の第2期建設および講義室の新設工事中にて拡充発展途上にある母校を親しくご覧いただくため総会会場は母校第1会議室で開催いたしますので一般会員も多数ご出席下さるようお願いいたします。

1, 定期総会

- (1)日 時 11月23日(月曜日) 勤労感謝の日 午前10時
- (2)会 場 母校第1会議室
- (3)議 題 (本部提案)
 - (1)昭和38年度収支決算について
 - (2)昭和40年度収支予算について
 - (3)定款の一部変更について
 - (4)会費納入について

- (5)会報の配布制限について
- (6)役員の変更について
- (7)賛助員の推挙について
- (8)その他

報告事項

- (1)会員名簿発行結果について
- (2)上田繊維科学振興会事業について
- (3)針塚先生胸像について
- (4)母校火災復興資金募集結果について
- (5)厚生施設楓荘の利用状況報告

2, 理事会

- (1)日 時 11月4日(水曜日) 午後2時
- (2)会 場 千曲会館
- (3)議 題 総会に附議する事項

3, 监事会

- (1)日 時 11月18日(水曜日) 午後1時
- (2)会 場 千曲会館
- (3) 本会業務執行及び財産状況監査

社団法人理事長 荻原清治

本 会 記 事

会員名簿編集委員会開催

10月2日会員名簿編集委員会を開催した。出席者は関博夫理事、遠藤恒久理事、坂口育三編集顧問、田中茂光、押金健吾、小笠原真次、三石賢、須田圭二、白井要範の各委員で次の事項を協議した。会員名簿は予定通り10月1日印刷製本完了、10月10日発行出来ることになった。かねて予約注文のあった支会に一括発送すること。理事、顧問、相談役の各役員および各支会に一部寄贈を発送すること。交換贈呈として関係大学及び図書館に発送すること。協賛広告の139会社に一部を各贈呈送本すること。勤務先、住所等の追補およびその後の移動は会報動静に掲載することになった。

学内理事会開催

10月22日学内理事会開催した。出席者は荻原理事長、小泉名誉会長、野口顧問、山口定次郎、小林尚一、田口亮平、白井美明、町田博、松尾卓見、関博夫、石川博、青沼茂、遠藤恒久、大屋正尚の各理事で協議事項は来る11月4日開催の理事会において第25回定期総会提出議題案を検討した。

提出議題は次のとおりとすること。

- 1. 昭和38年度収支決算について
- 2. 昭和40年度収支予算について
- 3. 定款の一部変更について
- 4. 会費納入について
- 5. 会報の配布制限について
- 6. 役員の変更について
- 7. 賛助会員の推挙について
- 8. その他

報告事項

- 1. 会員名簿発行結果について
- 2. 上田繊維科学振興会事業について
- 3. 針塚先生胸像について
- 4. 母校火災復興資金募集結果について
- 5. 厚生施設楓荘の利用状況報告

千曲会費完納者

会費通算40回完納者は内規で会費免除されるが今回の方はこの項に該当し免除された。本会向上発展のためご協力を謝す。

清水衛敏(蚕11・東京支会)

母校火災復興資金完納者氏名

東京支会	1,000円	前原富士子(糸別3)
小 計	1名	1,000円
累 計	1492名	3,374,474円

母 校 ニ ュ ー ス

学 内 人 事

○10月1日四方昭吾講師は信州大学助教授(繊維学部一般教育化学研究室)に昇任された。

稚蚕共同飼育オートメーション

機械飼育機の完成

繊維農学科竹田研究室においては1昨年来文部省の研究助成を得て班長小泉繊維学部長および竹田助教授、田中一行助手により養蚕共同飼育用オートメーション機械飼育機の研究を進めていたが、この程完成し、関係業界より注目と絶賛を

得ている。詳細は後日本会報に掲載の予定である。

学 部 祭 の 開 催

10月29日から11月3日まで恒例の学部祭は好天に恵まれ盛大に行われる。一学内の統一と団結文化高揚のために一を学部祭の統一テーマに多彩な行事が展開され上田市を初め近郷よりの観覧者で賑った。

昭和40年度信州大学大学院 繊維学研究科(修士課程) 入学合格者内定

10月13日施行された昭和40年度信州大学大学院繊維学研究科(修士課程)の学力試験および面接、健康診断および出身大学長(出身学部長)から提出された調査書により研究委員会は検討協議の結果繊維農学専攻1名、紡織工学専攻2名、繊維工業化学専攻7名計10名の合格(内定)者に合格通知を出した。発表は第2次試験合格者と同時発表することになった。なお合格者10名の内には他大学出身者2名が含まれている。

なお第2次募集要領は次のとおりである。

- 出願期日 昭和40年2月20日(土曜日)から3月5日(金曜日)まで
- 試験日 昭和40年3月16日(火曜日)
- 発 表 昭和40年3月20日までに第1次試験合格者と併せて同時発表する。
- 募集人員 繊維農学専攻11名、紡織工学専攻8名、繊維工業化学専攻1名の予定である。

会 員 動 静

新名簿頁	会員名	学科名	支会名	勤務先	住 所
42	渡辺 晋吉	蚕 15	茨城	自 営	茨城県竜崎市若柴町2964の1
44	真木 元	蚕 16	埼玉	勤前のとおり	埼玉県鴻巣市滝馬室逆川23
51	石塚 亮	蚕 21	北 奥		盛岡市上田字石野平48の2
80	太田 達郎	蚕 37	東 京	東京都八王子市中野町西2の3898 片倉工業八王子社宅	
80	東 哲夫	蚕 37	北 信	長野県蚕業試験場(長野市岡田)	
86	矢口 徹	学織 1	北 安	松本市役所総務部開発調査課長(松本市)	
90	塚田 光弘	学織 4	更 埴	長野県埴科地方事務所蚕糸課 (更埴市屋代)	
94	古沢 昭二	学蚕 6	北 信	長野県蚕業講習所	更埴市大字小島
102	吉田 治雄	学織 11	近 畿	岡畑興産KK企画室(大阪市南区大宝寺 町東之町62)	
111	岡村 奨	農 4	北 信	長野県庁社会部厚生課(長野市南県町)	
126	倉橋 琢而	糸 10	兵 庫	西日本蚕糸KK(神戸市葺合区浜辺通8)	大阪府三島郡三島町味舌下1627 の55
129	福島鋼治郎	糸 12	東 京	浜特許事務所(東京都港区芝新橋1の20 堤ビル四階)	前の通り
155	諏訪幾久男	糸 28	北佐久	佐久公共職業安定所(佐久市取田)	
156	上石睦二郎	糸 29	飯 高	長野県上高井地方事務所蚕糸課長(須坂 市常盤町)	
158	藪 一義	糸 30	東 京	(中村一義は課長) 片倉工業KK第2営 業部メリヤス課(東京都中央区京橋3丁 目2の4片倉ビル)	
160	高岸 三善	糸 32	群 馬	日本化薬KK岩鼻作業所(高崎市岩鼻町 239)	
194	竹内 方榮	紡 9	愛 知	勤前のとおり	名古屋市中区下飯田町2の7 電(98)2740
200	二木 典夫	紡 17	兵 庫	日本毛織KK施設部機械課(神戸市生田 区明石町47)	
230	春原 昌行	学紡 4	愛 知	全織同盟愛知紡績労働組合本部(安城市 今村町前の池90の1)	安城市今村町茅ヶ原73の3 愛知 紡績社宅1の1号
238	知野 光伸	学紡 9	近 畿	大阪府立織維工業指導所(泉大津市旭町 102)	
243	春原 正心	学紡 11	更 埴	更埴市屋代町2139の3	
249	熊田喜代志	化 2	愛 知	東海レイヨンKK木曾川工場(愛知県一 宮市北方町中島中起710)	
261	西島 靖元	化 7	京 滋	勤前のとおり	京都市宇治市木幡御藏山39-250
271	樋村 晃一	学化 3	神奈川	藤沢市辻堂7181日本住宅公団辻堂団地 8-4の304号	
276	三原寿恵男	学化 6	静 岡	Cotton Company of Etthiopia S. C. P. O. Box 29 Dire Dawa Ethiopia	(留守宅) 静岡県駿東郡小山町 富士紡川前アパートDの4
277	峯村 勲弘	学化 7	近 畿	帝人KK織織加工研究所(大阪府茨木市 耳原一)	同上帝人いばらき荘
290	森高 守成	紡 専	近 畿	日本専売公社高槻工場製造部(大阪府高 槻市柴田町2ノ1)	

海外に飛躍する

北野建設株式会社

取締役社長 北野次登

本 社 長野市県町524
 東京支店 東京都中央区銀座1の5北野ビル
 大阪支店 大阪市北区堂島浜通り1の25新大阪ビル
 出張所 松本・高田・ジャカルタ

編集室より

菊薫る文化の日学部際が終ると、各学会研究発表会が各地で行われる。母校学部も今、繊維化学工学科第2期工事および講義室の建設の真最中で堂々たる学問探求の殿堂も明春は竣工する予定である。

11月23日恒例の本会定期総会は別掲のとおり母校で開催される、各位のご出席をお待ちいたします。

編集委員 小林高一、香山清和、大屋正尚、吉平福紀
 滝沢達夫、窪田衛二、小山 定、小林 勝
 白井要庵